



エコ・ファーストの約束 ～環境先進企業としての地球環境保全の取り組み～

環境大臣 伊藤 信太郎 殿

2024 年 4 月 10 日

鹿島建設株式会社

代表取締役社長 天野 裕正

鹿島建設株式会社は「鹿島環境ビジョン トリプル Zero2050」において、持続可能な社会を「脱炭素」「資源循環」「自然共生」の3つの視点でとらえ、2050年までに鹿島が達成すべき将来像を「Zero Carbon」「Zero Waste」「Zero Impact」と表現しました。

1. 温室効果ガス的人為的排出量と地球の吸収量がバランスする脱炭素社会（Zero Carbon）の実現に積極的に貢献します。

- 自社事業からの温室効果ガス排出量（スコープ1・2）を2030年度までに42%以上削減します（2021年度比）。また、2050年度のカーボンニュートラルを目指します。
 - ・ 建設現場の自動化施工技術を開発展開することで、生産性の向上と併せて施工時CO2の削減を推進します。
- 当社のサプライチェーン排出量（スコープ3・カテゴリ1：建材製造時、カテゴリ11：建物運用時）を2030年度までに25%以上削減します（2021年度比）。また、2050年度のカーボンニュートラルを目指します。
 - ・ 製造時CO2の少ない建設資材の開発普及により、スコープ3・カテゴリ11の削減を推進します。
- 再生可能エネルギー施設の建設及び、技術開発、社会実装により脱炭素社会実現を推進します。
- 「気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)」に賛同しています。シナリオ分析の結果に基づき、温室効果ガス削減を引き続き推進していきます。

2. 建設廃棄物のゼロエミッション化とともに、サステナブル資材の活用、建造物の長寿命化により建設事業での資源循環（Zero Waste）を目指します。

- 2030年度までに建設廃棄物の最終処分率0%を目指します。
 - ・ 建設現場で発生する廃棄物の分別、再資源化を推進し、資源循環を推進しています。
 - ・ 全社をあげてプラスチック問題への対応を進めています。

3. 建設事業における自然・生物への影響を抑制し、新たな生物多様性の創出・利用を促進することで、建設事業全体での自然共生（Zero Impact）を目指します。

- 生物多様性創出プロジェクトの推進し、生物多様性ネットワークの拠点（コア）となる良質プロジェクトを社会に蓄積します。（6件/年以上）
 - ・ 当社が開発した海藻種苗栽培等の藻場の保全・再生技術を活用し、地元自治体、漁業協同組合等と連携した普及拡大を進め、藻場の保全・再生及び漁業資源増を図ります。
 - ・ 当社が開発したコーラルネット等を活用し、国内外の政府機関、研究機関と連携したサンゴ再生プロジェクトの普及拡大することで、海の生物多様性を保全します。
 - ・ 建設工事による自然改変の低減/代替のため、当社が蓄積した生態系保全技術を活用したビオトープ整備により、地域生態系保全や地域と連携した環境教育を進めます。

鹿島建設株式会社は、上記の取り組みの進捗状況を確認し、その結果をホームページで定期的に公表するとともに、環境省へ報告します。